

# ◎北海道新聞



アスペルガー症候群の娘とその親の体験について軽妙に語った田辺鶴英さん

## 自閉症の「アスペルガー症候群」 講師田辺さんが体験談

函館

国連が定めた4月2日の世界自閉症啓発デーに合わせ、函館市出身の講師田辺鶴英さんが31日、「ふらっとDaimon」（函館市若松町）で自閉症講演「だからこそ私は私」を披露した。アスペルガー症候群の娘とその母親の体験について語り、症状を理解することの重要性を説いた。

鶴英さんは、遺愛女子高藤女子短大卒。1990年に講師の田辺一鶴さんに入門し、2003年に真打ちに昇進した。現在は東京を拠点に介護を題材にした講演で活躍している。

講演では、母親からリビングの机の上の買い物袋を持ってくるよう頼まれたアスペルガー症候群の娘が「買い物袋がない」と戻ってきたエピソードを紹介。「実際にはソファの上であり、リビングを見渡せば発見できるのだが、机の上しか見ない。これが発達障害、アスペルガー症候群の特性の一つ」と語った。

その上で「娘はアスペルガーをマイナスとは思わず、それが自分だと思えば、人生を歩んでいる」と締めくくった。（合津和之）



記事 (四月一日)



◎函館新聞(四月一日)記事



アスペルガー症候群の女性の物語を軽快に披露した鶴瑛さん

# “自閉症講談”に挑戦

## 田辺鶴瑛さん、軽妙に語る

2日の「世界自閉症啓発デー」に合わせたイベントが3月31日、函館市内の商業施設などで行われた。ふらっとDaimon(函館駅前ビル6階)と函館蔦屋書店では、函館出身の講師、田辺鶴瑛さんがアスペルガー症候群の女性の体験

談を元にした“自閉症講談”に初挑戦した。鶴瑛さんは故田辺一鶴門下で、日本講談協会の真打。軍記物などの古典をはじめ、母と義母の介護での苦労を笑いに変え、創作した介護講談を演じている。自閉症講談は同啓発デー

函館地域実行委員会が提案。函館在住の白崎やよいさん、母の花代さんが書いた「アスペルガーだからこそ私は私」を原作に、鶴瑛さんが新作講談をつくり上げた。

講談では、アスペルガー症候群など発達障害の特性を紹介しながら、娘と母の苦悩を軽妙な語り口で披露。花代さんが娘と向き合うため、違和感があった行動を記録して、後で話し合うことを繰り返して、「頑固やわがままという娘の特徴が違うものに見えてきた」というエピソードを紹介した。

鶴瑛さんは講談の中で「アスペルガー症候群の人は『空気が読めない』と言われるが、言葉をその通りに受け止めてしまうだけだ。日本という社会が生き

にくいのではないかと疑問を投げかけ、「今後もライフワークとして自閉症講談を続けていきたい」と話していた。(深津慶太)

世界自閉症啓発デー 2019

3/31(sun) 12:00-15:00

—スペシャルゲスト—



■田辺 鶴瑛■

講談協会 真打 函館市出身 夢は日本全国あちらこちら、地域寄席・自宅寄席で古典講談の良さを広めること。

著書「びんびんころりでいきましょう」(文芸社) 「ふまじめ介護」(主婦と生活社) 「ふまじめ介護 ゆうゆう流」(主婦と生活社)

In ふらっとDaimon 入場無料

- ▲一条ミュージアム▲
  - ・函館一条に通う障害のある方の芸術作品展示
  - ・こうじさんの似顔絵コーナー(手書きorPC)

- ▲カフェ▲
  - ランチ注文の先着50名様に「青のゼリー」をサービス

その他イベントもお楽しみに!